

### 市民のスポーツ機会は—新スケート・カーリング場計画と美香保体育館跡地利用の課題 12月09日 経済観光委員会 田中市議



2024年12月9日に開催された経済観光委員会では、美香保体育館の後継施設としてツドーム敷地内に新たなスケート・カーリング場を整備する（仮称）新スケート・カーリング場整備基本計画（案）が議論され、田中啓介市議が質問

に立ち、事業手法や地域住民への影響についてとりあげました。

新施設の整備に伴い、夏季に卓球やバドミントンなどで利用されている美香保体育館の機能が失われます。田中市議は、現在の施設を利用している市民にとって重要なスポーツ機会を失わないための対応が必要」と訴え、これに対し久米田部長は、「他の体育館やコミュニティ施設で受け入れ可能」とする市に対し、「近隣施設では距離や時間帯の調整が難しく、十分な対応とは言えない」と反論、「市民のスポーツ実施率を向上させるには、既存の利用者が引き続きスポーツを楽しめる環境を確保することが重要」と機能の維持を求めました。

田中市議はまず、計画案で採用されたDB+O方式（設計・建設・運営一括発注

方式）について、「事務負担が大きいことを理由にDB+O方式が選ばれた」、「分割発注することで、地元企業が参画しやすい環境を整えるべき」と質問。これに対し、久米田真人施設整備担当部長は、「アイスメイクに関しては、今回妥協せずに、しっかりできるということでDB+O方式で運営部分を分けて発注した」と説明しましたが、地元企業参画の可能性については明確な回答を避けました。

田中市議は答弁を受けて、従事者が継続して働き、ノウハウを継承する仕組みが必要であり、今後の市の関与はどうかになっていくのかと質問。これに対し久米田部長は、今の時点でははっきりしたことは申し上げられないと、見通しを示すことはできませんでした。

### PFI事業の限界と市民負担——山口斎場運営費10億円増の再検討を問う 12月09日 厚生委員会 さとう市議



2024年12月9日に開催された厚生委員会では、第2期山口斎場運営維持管理事業に係る債務負担行為について議論が行われ、さとう綾市議が質問に立ちました。本事業は、PFI方式を活用した

山口斎場の維持管理を目的としており、予定価格の引き上げや入札不調の要因が議論の焦点となりました。

さとう市議は、入札不調となり、79億円から89億円と10億円に金額が引き上げられた要因について、検討にあたりPFIは6月の入札時の算定と今回ではどう変わったのかと質問。これに対し金綱良至施設担当部長は、入札不調の原因は、労務単価や資材価格の上昇により、予定価格内での提案が困難だったこと、内閣府ガイドラインを基に算定した予定価格が物価高騰を反映できず、結果として増額されたこと、また、PFIと従来手法の比較で依然としてPFI手法が優位と答弁しましたが、こうした財政負担の増加について、市民サービスや料金への影響が想定されるなか、市は特段の懸念を

示していません。

20年前のPFI導入時に示されたコスト削減効果には、BOT方式と直営とmp比較で6%の削減が説明されましたが、物価上昇や人件費増加でトータルの事業費が引き上がり、将来的に直営と同等になる可能性を指摘。また、火葬場利用料有料化案に関連して、運営コスト増が料金設定に影響を及ぼす可能性についても懸念を示しました。

百合が原公園や清田区民センターのPFI事業では、応募企業の減少がみられ、全国的に入札不調が問題となっています。特に斎場業務の特殊性から応募事業者が限られる点を指摘したさとう市議は、PFIの導入で競争性が担保されなくなるおそれがあり、適切であるか慎重な検討が必要と述べました。